

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう

(教材「お手紙」光村図書2年下)

2 単元の目標

○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知識及び技能(1)オ)

○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思考力、判断力、表現力等C(1)カ)

○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。(知識及び技能(1)カ)

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思考力、判断力、表現力等C(1)エ)

○進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①登場人物に向けた手紙を書くために、身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	①登場人物宛の手紙を書くという活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(C(1)カ)	①登場人物と自分とを比べて読み、「自分だったら～」と考えながら、進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。
②文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ)	②自分が感じたことや考えたことを明確化させるために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	

4 単元について

(1) 児童の実態 (一部省略)

児童は、これまで「ふきのとう」「スイミー」の2つの文学的な文章の学習を行っている。「ふきのとう」では、役に分かれ登場人物の行動や会話から想像を広げることができた。「スイミー」では、登場人物の会話や行動、場面の様子を段落ごとにまとめ、それらの違いを捉えることで、場面の移り変わりと登場人物たちの変容とを関連させながら物語を読んでいく学習を行った。これらの学習を通して、場面と場面との相互関係から、登場人物の心情や場面の様子を把握することができるようになってきた。その説明をしたり叙述を基に根拠をもって理由を話したり、自分の考えを表現したりすることができるようになってきた。

また、文を読むことに精一杯で、拾い読みをして音読に気持ちをこめられない児童もいるので、毎日

の音読を通して登場人物の心情、情景に浸りながら読む楽しさを知ることが今の目標であり、課題となっている。その中で、気持ちを吹き出しに書いてなりきって動作化したり、音読したりして登場人物に近づく活動を通して物語を深く読むことができるようになってきた。しかし、物語を読んで思ったことや考えたことを友達に伝え合ったり、話し合ったりする力は十分に身につけていない。そこで「わたしだったら～だと思おうよ。」「わたしも～したい。」「ぼくだったら～と思ったのにな。」「ぼくも～してあげたいな。」など、自分の経験、体験と結び付けて思いや考えを紹介する力を身につけさせていきたいと考えた。児童の実態からもわかるように、手紙を書いたり、もらったりした経験のある児童も多いため登場人物の心情に迫って読むことができると考えた。

児童は、『スイミー』においては、どの登場人物にどのようなことを伝えるのか、どのような言葉で表現するのか試行錯誤しながら取り組み、登場人物と自分と比べて読むことを無意識のうちにやっていった。本単元では、それを問いとして意識させることで自分だったらどうであるかと主体的に読むことが期待できるだろう。

## (2) 本単元で扱う言語活動と教材

「お手紙」は、かえるくんとがまくんの二人の登場人物を中心に場所や時間の移り変わりについてわかりやすく描かれた作品である。会話を中心に構成され、登場人物の関わり、挿絵からふたりの表情や気持ちを読み取り、登場人物の気持ちや行動の理由を叙述と結び付けながら具体的に考えていくことができる。友達を思ってさりげない心遣いで励まそうとする優しさと友達を思う温かい友情が主題となっている心温まる物語である。

低学年の児童にとっては、友達を意識し始める時期なので共感しやすい教材だと言える。それだけに、叙述を基に二人の会話や行動を丁寧に読み取り、温かな交流とともにお手紙のやりとりによって深まる友情を感じさせたい。友達との心のつながりに共感をもつことで自分と二人を比べて読む活動につなげていきたい。

本単元では、「お手紙」を教材とし、登場人物たちの気持ちの変化に着目して読み、言動を表す言葉を基に人物の様子を想像したり感想をもったりする。自分と登場人物を比べて読んだり、「自分だったらどうするか」と仮定して自分事として問いや感想をもったりすることで「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」という単元を貫く言語活動につなげていきたい。

2年生の子ども達にとって手紙は、国語科の感想文にはじまり、生活科の招待文、案内文、依頼文、お礼文など楽しんで学習するための身近な手段となっている。その手紙という手段を通して、書いて伝えるという実用的な価値、長い年月の中で生み出された文学的価値からも児童にとって書く意欲につながると考えた。

そして、手紙は思いを伝えたり、返事をもらったりする「伝え合う」手段にもなる。何より相手意識・目的意識をもたせることができ「書く」必然性が生まれる。「だれに」「どんな目的で」「何のために」「何を」「どの場面を」「どのことを」「どんな方法で」などはっきりしているのでは書きやすい文種だろう。

また、並行読書で本の中の登場人物と自分を比べ自分の感じたことや経験を結び付けた手紙を書いたり、感想をもったりできるようにする。この学習をきっかけに文学教材の読みものを読み、豊かな読書体験へと結び付けていく。

そして、登場人物と自分を比べて、自分が感じたことや考えたことを登場人物宛の手紙に書いたり友

達と交流したりすることで、作品の世界を楽しみ、一人一人の感じ方に違いがあることにも気づかせていきたい。

そこで、本単元の第一次では、これまでの読書経験から生き物、動物が出てくる話にどのようなものがあったかを想起したり、題名やリード文、挿絵を手がかりにしたりして、がまくんやかえるくんにどんなことが起こりそうかを予想する。また、教師の範読を聞き、大まかな内容を捉え、物語で「心に残った場面」や「不思議に思った場面」「驚いた場面」について交流し、学習計画を立てる。

第二次では、がまくんとかえるくんについて、どのような人物なのか、どのようなことを考えているのかを話し合い、検討していく。その際、ただの感情の想像とならないよう二人の言動や情景を基にして考えていくようにしたい。登場人物のどの言動に着目し自分のどの体験や経験と結び付けどのような感想をもつのか様々な意見が出るのが予想される。児童によって異なるからこそ叙述を基に話し合う価値を見出し、対話を通して思考を整理させ手紙の活動につなげていく。どの登場人物にどのようなことを伝えるのか、どのような言葉で表現するのか試行錯誤しながら取り組んでいく。友達の感想とも読み比べる対話的な学びを通して、考えることは人それぞれで、自分と同じではないことに気付くだろう。その上で、物語の主題にも迫らせた。

第三次では、がまくんとかえるくんの関わりや行動や様子を通して、自分が考えたことを話し合う。「おちば」の作品を読んで自分と比べて感想をもつ。「おちば」では、二人とも同じことを考えている。自分自身も友達のために何かをしていることがあることを振り返る。そして、できるようになったことを振り返る。

がまくんやかえるくんがどのように行動しているかが分かったことで、他の本でも「自分だったら」と自分事として考えながら読むことができるようにしていきたい。

### (3) 本単元で身につけさせたい力

〔知識及び技能〕における「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」指導事項「(1)カ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。」を踏まえ、教材文を読み進めていく際、既習にない言葉や表現も多く出てくるため、教師が一語ずつ例文を示したり、ギガタブを活用し意味を調べさせたりする。それらを、挿絵や動作化、言葉の宝箱などを使って補足し、がまくんとかえるくんの生活している様子、二人の行動の意味、それらに伴う二人の気持ちの変化など、自分事として想像することができるようにしていきたい。

次に〔思考力、判断力、表現力等〕における「C 読むこと」の指導事項「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」を踏まえ、場面ごとの登場人物たちの行動や気持ちが変わる文章を抜き出し、それを基に、登場人物たちになりきって「場面ノート」を書く。そうすることで、場面ごとの情景や登場人物たちの心情を具体的に想像することができるようになるとともに、場面と場面のつながりや登場人物たちの行動の因果関係を把握することができるだろう。

また、「場面の様子に着目して、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる」を踏まえ、登場人物の行動から、自分と比べて感じたことや考えたことを登場人物宛の手紙に書いたり友達と交流したりすることで、一人一人の感じ方に違いがあることにも気づき、読み手によって与えられる印象が異なることを知り、考えを多様化することができるだろう。【協働的な学び】

さらに、感想や考えをもつだけでなく、なぜそれに至ったのかについて、叙述を根拠に話し合う活動を設定したい。そうすることで、児童は、登場人物の行動や考え、心情の変化などについて、根拠を

もって自分の考えをもつことができると思う。

## 5 指導の手立て

### ○登場人物の気持ちを自分事とするための手紙を書く活動

がまくんやかえるくんになりきって手紙を書く活動を取り入れる。手紙に取り組むことで、物語を主体的に読み進めることができるとともに、がまくんやかえるくんの気持ちを自分事として捉えることができるだろう。さらに、場面ノート(登場人物の気持ち、心に残った会話文、登場人物に伝えたいこと)を蓄積していくことで、場面の移り変わりによる登場人物たちの気持ちの変化に気付くための手立てとなり、より読みを深めていくことができると思う。

### ○主体的に教材文を読み取るための学習課題設定

児童は、教材文「お手がみ」を読み音読を中心にあらすじを捉えていく。初発の感想で、「心に残った場面」や「不思議に思った場面」、「驚いた場面」を考えさせる。そこから今後の学習内容を選定していくことで、児童は自らの疑問を解決していくために主体的に教材文を読み解いていくだろう。

さらに、児童の初発の感想から作成した学習計画表を掲示する。そして、単元のゴールを設定し、手紙を書くために考えを広め、深めようと意欲が高まる姿が期待できる。そうすることで、学習の見通しをもつことができるとともに、前時や次時と本時とのつながりを意識し、一人一人が自信をもって学習を進めることができるようになるだろう。

また、主体的な伝え合いを行っていくため、2年生になり「話し方・聞き方」を大切にしていた。交流場面では、分からないことを質問したり自分の考えと友達の考えを比べて互いの感じ方、考えの良さを伝え合ったりすることをしてきた。本単元でも、読み取った登場人物の心情や考えを活発に伝え合うことができるだろう。

並行してシリーズ本の活用も行っていく。今回のシリーズ本はどれも短編で読みやすく、登場人物のあたたかな友情が伝わるものである。学級文庫に配架して児童がいつでも手に取れるようにしたり、読み聞かせやアニメーション、ブックトークをしたりしていく。並行読書をする中で他の作品から得たがまくんやかえるくんの人物像を共有し、多角的に登場人物を理解できるようにする。叙述を基にした感想や意見だけではなく、本文には描かれていない登場人物の様子や人柄を想像し表現させていきたい。同じ作家の文章から物語の世界を豊かにし、今まで以上に自ら本に手を伸ばす児童を育てていきたい。

#### ～シリーズ一覧と収録物語～

- ① 『ふたりはともだち』・・・「はるがきた」「おはなし」「なくしたボタン」「すいせい」「おてがみ」
- ② 『ふたりはいっしょ』・・・「よていひょう」「はやくめをだせ」「クッキー」「こわくないやい」  
「がまくんのゆめ」
- ③ 『ふたりはいつも』・・・「そりすべり」「そこのかどまで」「アイスクリーム」「おちば」  
「クリスマスイブ」
- ④ 『ふたりはきょうも』・・・「あしたするよ」「たこ」「がたがた」「ぼうし」「ひとりきり」

○叙述を問い直す発問の工夫

同じ文を読んでも児童の考えや、想像は違うため、グループ交流により児童の共通理解を図っていきたい。その際、交流活動の充実を図るために児童の思考をゆさぶる質問を行っていく。この発問により登場人物の様子をさらに豊かに想像できると考える。

○手紙を書くための手立ての工夫

文章を書くことや意見を発表することに苦手意識をもっている児童もいるため、手紙を書く際のテンプレートを用意しておく。また、登場人物たちの心情を考える際には、蓄積された場面ノートや言葉の宝箱、既習の書き方見本を用意しておくことで、抵抗なく自分の考えを書き進めたり発表したりすることができるようになるだろう。

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		○朝読書の時間などに絵本(アーノルド＝ローベル)を読み聞かせたり、アニメーション(アニメーション作戦1)、ブックトークなどを行ったりして読書活動へとつなげる。	○補助教材(シリーズ一覧参照) ・『おちば』 ・『おはなし』 ・『ぼたん』 ・『クリスマス』 ・『よていひょう』 など アーノルド＝ローベル作品	<b>【態①】</b> ・他の物語文においても、描写に着目したり複数の叙述を結び付けたりして読もうとしている。  (観察)
既習の『ずっと、ずっと、大すきだよ』の作品を読み聞かせし、誰宛に手紙を書くか、一人一人が考えて書く活動を行っていく。 例：ぼくへ、エルフへ				
第一次	1	○挿絵、題名、リード文から、物語の内容を想像する。 ○物語について、題名や扉文から物語を想像する。 ○「お手紙」の範読を聞き、物語のおおまかな内容を捉え、初発の感想を書く。教科書 26ページ「といをもとう」を基に感想を交流し、この単元で考えてみた	○「これまでの学習」を基に既習事項(手紙を書いた活動)を振り返らせ、学習に対する意欲をもたせる。 ○登場人物、主な出来事、結末などを捉えながら読むようにする。 ○「気持ち」、「不思議に思ったこと」、「驚いたこと」などについて初発の感想を書くように指示する。 ○挿絵をもとにあらすじを確認できるようにする。 ○初発の感想のうち、多かった感想や自分で解決できない疑問、学級全体で話し合いたいことなど価値ある課	<b>【態①】</b> ・物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書こうとしている。 (発表・ワークシート) <b>【思・判・表②】</b> ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、物語のあらすじをつかみワークシートにまとめようとしてい

		<p>いことを出し合う。</p> <p>○教科書 26、27 ページを見て、大体の学習の進め方と新出漢字も確認する。</p>	<p>題を適宜取り上げていくようにする。</p> <p>○単元のめあてと学習計画を立て、学習の見通しをもてるようにする。</p>	<p>る。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>【知・技①】</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。</p> <p>(記述・発言)</p> <p>【知・技②】・文の中における主語と述語との関係に気付いている。</p> <p>(記述・発言)</p> <p>【態①】</p> <p>・単元の目標や学習計画を理解し、進んで「お手紙」を読もうとしている。</p> <p>(観察・発言)</p>
	2	<p>○単元の目標を理解し、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>○会話文に着目し、どの登場人物の会話か考える。</p>	<p>○かえるくん(緑色) がまくん(黄色) かたつむりくん(赤色) で視覚的に色分けし、会話文にシールを付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>登場人物についての掲示をしていく。</p> </div>	
第二次	3 4	<p>○人物のしたことや様子をたしかめる。</p> <p>○1、2、3場面を音読する。役割分担をして、主語を意識しながら音読できるようにする。</p>	<p>○役割分担をして、主語を意識しながら音読できるようにする。</p> <p>○「だれが」「どこで」「何をしたのか」「どんな様子なのか」を確かめる。</p>	<p>【態①】</p> <p>・単元の目標や学習計画を理解し、進んで「お手紙」を読もうとしている。</p> <p>(観察・発言)</p>
	5	<p>○1の場面を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを考える。場面の設定(場所)を捉えるとともに、がまくんやかえるくんがどんな人物なのかを、叙述を基に話し合う。</p> <p>→手紙がもらえず悲しんでいるがまくんにかえるくんが共感する場面</p>	<p>○挿絵、文から読み取らせる。</p> <p>○なぜ、かえるくんまで悲しい気分になったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いちども」</li> <li>・「だれも」</li> <li>・「お手紙なんか」</li> <li>・「空っぽさ」の言葉に着目し「ふたりともかなしい気分」について話し合う。</li> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・心に残った会話文</li> <li>・登場人物に伝えたいこと</li> </ul> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <p>} 場面ノート1</p> </div>	<p>【知・技①】</p> <p>・「気持ちを表す言葉」を使って、登場人物の気持ちを表す語句を知り、文脈に合わせて使っている。</p> <p>(記述)</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像して</p>

6	<p>○2の場面を読み、かえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>→手紙がもらえず悲しんでいるがまくんにかえるくんが共感する場面</p>	<p>○挿絵、文から読み取らせる。</p> <p>○なぜ、自分で手紙を届けなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大いそぎ」「飛び出した」など主語がない文に着目して話し合う。</li> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・心に残った会話文</li> <li>・登場人物に伝えたいこと</li> </ul>	<p>いる。</p> <p>(記述・発言)</p> <p>【思・判・表①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</li> </ul> <p>(記述・発言)</p>
7	<p>○3の場面を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>→がまくんがあきらめてお昼寝をする場面</p> <p>○3の場面を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>→かえるくんががまくんをはげましながらお手紙を待つ場面</p> <p>○3の場面を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>→二人の心の通い合い</p>	<p>○挿絵、文から読み取らせる。</p> <p>○あきらめずにお手紙を待つように言ったのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3回も窓の外をのぞくかえるくんの様子について考える。</li> <li>○「ああ。」に込められたがまくんの気持ち。</li> <li>・どのように言ったのか。</li> <li>・込められた気持ちとその根拠</li> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・心に残った会話文</li> <li>・登場人物に伝えたいこと</li> </ul>	<p>・友達の感想や考えを聞き、感じ方などに違いがあることに気づいている。</p> <p>(記述・発言)</p> <p>【態①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの問いをもって文章を読んだり、友達の発表を聞いたりして、進んで登場人物の気持ちを想像しようとしている。</li> </ul> <p>(記述)</p> <p>【態①】</p>
8	<p>○「四日後」を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>→二人の心の通い合い</p>	<p>○挿絵、文から読み取らせる。</p> <p>○お手紙が届いた時の二人の気持ち</p> <p>○4日経ったのにうれしいのはなぜか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ届く方がよいか、4日経った方がよかったかを話し合う。</li> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・心に残った会話文</li> <li>・登場人物に伝えたいこと</li> </ul>	<p>・会話や行動を中心に想像を広げながら読み、自分の経験と関連付けて読むことができる。</p> <p>(記述)</p>
9	<p>○「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったときのがまくんの様子について具体的に想像する。</p>	<p>○がまくんが「とてもいいお手紙だ。」と話したのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんがぼくだけのために手紙をかいてくれたから。</li> <li>・友達ではなく親友といわれたから</li> </ul>	

			○「かえるくん」の書いたお手紙を黒板に掲示して音読させ、どの言葉からいい手紙だと感じたのか叙述に立ち戻って考える。	
	10	○それぞれの登場人物を自分と比べる。 →登場人物のどちらに手紙を書くのかにつながる。	○教科書 27 ページを参考に「自分だったら」と考え、意見交流をして考えを広げる。 ・自分だったら、がまくんとちがって、毎日待てないな。 ・自分だったら、かえるくんと同じで、最後までがまくんといっしょにいるよ。 ・自分だったら、かえるくと似ていて、がまくんの喜ぶ顔を見たいから一緒にいたいな。	【思・判・表①】 ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 (発言・記述)
第三次	11 本時	登場人物に手紙を書き、友達と読み合おう。		【態①】 ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。 (ワークシート)
		○誰に手紙を出すのか決めて、手紙を書く。 ○手紙を友達と声に出して読み合う。	○どのように手紙を書くと登場人物の気持ちや行動のわけが伝わるか。 ○これからの友達との手紙のやり取りにつなげられるようにしていく。	
	12	○単元全体を振り返る。 ○誰に手紙を出すのか決めて、手紙を書く。 ○「おちば」、シリーズ本を読み、自分と比べて感想をもつ。 ○手紙を掲示し、がまくんとかえるくんシリーズの紹介をする。	○どのように手紙を書くと登場人物の気持ちや行動のわけが伝わるか。 ○これからの友達との手紙のやり取りにつなげられるようにしていく。 ○学習のまとめとして感想交流する。 ○同じ物語、本を読んでも児童の考え、想像は違うため、手紙を共有することにより、様々な立場から作品を楽しめるようにする。 ○様々な友達の考えを知り、共有する中で自分とは異なる視点や感じ方に出合い、これからの読む活動への糧にしていく。	【態①】 ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。 (ワークシート)  【思・判・表①】 ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる (記述・発言)

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・登場人物宛の手紙を書くという活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

(思考力、判断力、表現力等C (1) カ)

(2) 本時の展開 (11/12)

時配	主な学習活動と内容 (・予想される児童の発言)	○指導や支援の手立て ◇評価
10	<p>1 本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙が届いた時、二人はどんな気持ちだったかな。</li> <li>・友達だったら誰からの手紙でも同じように感動したのか？</li> <li>・親友の「かえるくん」だからこそこんなに感動しているのか。</li> <li>・4日経ったのにうれしいのはなぜ？</li> <li>・すぐ届く方がよいか、4日経った方がよかったか。</li> <li>・それぞれの登場人物を自分と比べる。</li> </ul>	<p>○前時までの学習を掲示物や学習計画表、場面ノートで振り返り、1 から3の場面でがまくんとかえるくんの気持ちに変化があったことを想起させる。</p> <p>○一斉音読する際には、登場人物の気持ちや言動に注目しながら読むよう促す。</p> <p>○前時までに蓄積してきた場面ノートを見て、気持ちが変わる文章を確認させることで、学習の焦点を捉えやすくさせる。</p>
<p>とう場人ぶつに手紙を書き、友だちと読み合おう。</p>		
20	<p>2 心に残ったことや自分の言いたいことを手紙に書く。</p> <p><b>【例】かえるくんへ</b></p> <p>かえるくんは、がまくんにお手紙を届けたら喜ぶと思っていたんだね。わたしも、きっと同じことをすると思うな。</p> <p>お楽しみは、とっておきたい気持ちがかたつむりくんに頼んだところでよくわかったよ。</p> <p>ふたりは、本当の親友ですね。がまくんが服をあげたからお返しをしたのかな。</p>	<p>○本時のめあてを確かめる。</p> <p>○登場人物(がまくん、かえるくん)に宛てて話の内容をもとに手紙を書いて発表し合うことを確認する。</p> <p>○単なる気持ちの想像だけではなく、本文の内容や叙述を基に書くよう声をかける。</p> <p>○自分の考えを書くことが苦手な児童には、罫線幅を工夫したプリントや手紙の書き方例(テンプレート)を活用して書くように声をかける。</p> <p>◇登場人物宛の手紙を書くという活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを共有</p>

	<p style="text-align: center;"><u>〇〇より</u></p> <p>【例】 <u>がまくんへ</u></p> <p>がまくんは、かえるくんからお手紙をもらってとびはねるほどうれしかったよね。わたしも同じようなことがあったから気持ちよくわかるよ。</p> <p>はじめての手紙ががまくんでなおさらうれしかったんだよね。</p> <p>親友はかなしいときもうれしいときも心が通い合っているんだね。かえるくんに出会えてよかったね。</p> <p>かえるくんにおへんじを書くところよ。</p> <p style="text-align: center;"><u>〇〇より</u></p>	<p>することができている。[思・判・表]</p> <p>○叙述を基にして考えていることや、前時までの学習をふまえて考えているかを大切にすることを促す。</p> <p>○本文には描かれていない登場人物の様子や人柄を想像し表現させる。</p> <p>○同じ文を読んでも児童の考え、想像は違うためグループ交流により児童の共通理解を図る。その際、交流活動が充実するよう児童の思考をゆさぶる質問を行う。(この発問により登場人物の様子を豊かに想像できるようにする。)</p> <p>○なぜその内容になったのか、説明できるように理由も考えておくよう伝える。</p>
10	3 代表者が全体の前で発表する。(観点を伝える。)	○様々な考えが出た中で、自分と違う考えでも納得できたり共感したりした場合は、手紙を書き直したり追記したりしてもよいことを伝える。
3	4 自分の考えをまとめ、学習を振り返る。	○自分の考えとの違いに着目して話を聞くように促す。
2	5 今後学習の見通しをもつ	○様々な立場からの考えが出てくるよう意図的に児童を指名する。
		○交流したことで、自分の考えがどうなったのかを振り返らせるようにする。
		○作品の世界を楽しんだり、登場人物になりきったりするようにする。
		○物語全体を振り返り、登場人物たちの気持ちの変化について考えてきたことを確認する。
		○がまくんの家ポスト、かえるくんの家のポストに自分で手紙を出しに行く。